

## 【課題】

### △多言語化、多国籍化、散在化

→バイリンガル相談員等の確保が困難になっている。

### △定住化による進学希望増

→教科学習支援等、個に応じた指導の必要性が高まっている。

### △加配教員の基礎定数化

→個に応じた適切な特別の教育課程の編成及び着実な実施が求められる。

**「やさしい日本語」研修会**  
外国人児童生徒等の学校生活への早期適応、就学の定着、進学を促進する。

**関係機関との連携**  
多文化共生課、市町教育委員会、国際交流協会等との連絡協議会を開催し、関係機関との連携を強化する。

**「特別の教育課程」による日本語指導の実施**  
日本語指導コーディネーターを教育事務所に配置し、各市町の実態を踏まえながら、日本語指導体制の構築を図る。

**相談員等の派遣**  
「母語による日本語指導」と「日本語による日本語指導」を効果的に行い、適切な支援体制を構築する。

**ICT機器の活用**  
タブレット端末、自動翻訳機、遠隔システム等の活用により、支援の充実を図る。

## 【予想される成果】

- ・外国にルーツがある児童生徒が安心して学べるための支援充実を図る
- ・外国にルーツがある児童生徒及び保護者が日本の学校生活に早期に適応できるための支援充実を図る  
⇒支援により「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合 (R3)96%→(R4)94%→(R5)94%
- ・外国にルーツがある児童生徒の進学を促進させ、就学の定着を図る  
⇒「支援は授業が分かる上で役立つ」と答える児童生徒の割合 (R3)95%→(R4)98%→(R5)92%  
「特別の教育課程」による個別の指導目標達成率 (R3)95%→(R4)91%→(R5)97%

## 外国人生徒みらいサポート事業

